

北海道議会議員（上川地域選挙区）

みずま 健太

道政活動報告

水間健太事務所

〒076-0032 富良野市若松町8番10号

TEL 0167-33-1778 FAX 050-3488-9580

MAIL mizumakenta.office@gmail.com

子ども達の
未来のために

令和6年第2回定例会

6月18日から7月5日までの日程で、令和6年第2回定例会が開かれました。水間健太は、当選後、3回目の一般質問に立ち農業・観光・教育などについて道の考えを質しました。また、約14億円の一般会計補正予算が提案され、既計上額と合わせて一般会計合計額は、約3兆230億円となりました。

提案された補正予算は、こちらの
QRコードからご覧になれます



一般質問の内容をご紹介します

観光振興について

アドベンチャートラベルの推進について

（Q）道は、アドベンチャートラベル推進のため、ガイド育成や地域への支援、受け入れ体制の整備に関する予算を計上しているが、あわせて、これまで本道の資源を活用し、魅力的なアウトドアアクティビティに取り組んできている、**既存の事業者が商品開発をする際の様々な機関との調整をサポートする体制が必要**では。（A）地域のアウトドアガイドをはじめとする観光事業者を参集範囲とする交流会において商品造成を目的としたワークショップを実施することとしており、ガイドの連携はもとより、DMOやツアーオペレーターとのネットワーク化を図り、**商品開発にあたって地域が一体となって対応できる体制の構築**を図っていく。

観光振興を目的とした新税の非課税項目について

（Q）いわゆる宿泊税については、地域説明会においても**免税点**を希望する声や修学旅行やその他の学校行事への**課税免除**を希望する声が多かったと聞くが考えは。（A）宿泊目的にかかわらず、宿泊者の受益という点で関連性が整理できる施策に充当するという原則的なルールを示しており、税の原則である公平性の観点で踏まえ**免税点を設けず**、修学旅行等の学校行事については教育課程に公益性を認め公的な証明が可能であることから**修学旅行等の学校行事については非課税とした**。

（観光振興についてその他の質問）

・オーバートーリズム対策について

・観光振興を目的とした新税の考え方について

（経済部へのその他の質問）

・ゼロカーボンイノベーション導入支援事業について

※幌加内町で取り組んでいる、そば殻を活用したパイオコープスの取り組みなどについて

農業振興について

農業分野におけるＪクレジットの推進について

(Ｑ) 幌加内町で取り組んでいる、そば殻を活用したバイオコークスは、燃料としてだけではなく、発生する灰を肥料としての活用や土壌改良材、さらにはＪクレジットの対象にもなるバイオ炭の貯留など様々な活用が期待される。環境にも配慮し、農業の付加価値向上にも資する**農業分野におけるＪクレジットの推進**についてどのように取り組んで行くのか。

(Ａ) 水稻栽培での中干し期間の延長や**バイオ炭の農地施用のモデル地区（空知と十勝の２か所）**を設置し、クレジットの認証取得を支援する実証事業に取り組むほか、農業分野のＪクレジットの普及拡大に努め環境保全型農業の確立に努める。

持続的なてん菜生産に向けた取り組みについて

(Ｑ) 2024年産は48,990ha、25年産の作付け意向調査も49,563haと国の示す50,500haを下回っている。国の新たな基本計画の策定を見据え、本道農業における輪作体系の維持対策、地域経済の振興のためにも**てん菜の作付け維持を図ることが重要**だがどのように取り組んで行くのか。

(Ａ) てん菜は、畑作農業における基幹作物であり、製糖工場は地域の雇用や経済を支える重要な役割があると認識している。適正な輪作体系を維持していく上でも、安定的な生産が必要。道としては、省力低コスト生産を進め、猛暑に対応した技術や耐病性に優れた品種の開発、また、砂糖の消費拡大や新たな用途に関する情報提供を行うなど、**生産と消費の両面からの施策を総合的に展開**しててん菜の安定的かつ持続的な生産に向けて取り組む。

(農業振興についてその他の質問)
・みどりの食料システム戦略の推進について

ヒグマ対策について

ヒグマ管理計画について

(Ｑ) ヒグマ管理計画の改正の方向性が示されたが、**メスグマをどのような方法で捕獲し管理**しようと考えているのか。

(Ａ) メスグマ捕獲数により管理することを検討しているが、捕獲目標については**性別にかかわらず総数で設定**する。(例：メスグマを300頭捕獲し管理を行うために、総数の捕獲目標を1500頭とする。過去の実績から捕獲の3割がメスグマであるため)

ハンターの待遇改善について

(Ｑ) 地域によって**バラツキのある捕獲従事者への報酬**にかかる道の認識と、出勤した際に事故が生じた場合に補償する保険などの状況はどのようなになっているか。

(Ａ) 捕獲対応についての報酬については**市町村の実情において設定**されている、保険などについては、鳥獣被害防止特措法に基づく農林業被害防止のための出勤の場合は非常勤の公務員の身分を有し公務災害が適用される、道が実施する春期管理捕獲においては、保険加入費なども支援の対象としている。

報酬などのについては、**国に対し適正な単価設定を要望**するなど市町村の負担軽減に取り組んで行く。

(ヒグマ対策についてその他の質問)
・ハンターの育成について

道立高校入試における出願手続きの電子化について

(Ｑ) 受験生や保護者、教職員の負担軽減のメリットを考慮すると、**道立高校入試における出願手続きの電子化を導入すべき**と考えるが見解は。

(Ａ) **本年度実施する入学者選抜から出願手続きの電子化を導入**する。本年9月に入試の実施要項を決定し、11月を目途に出願手続き電子化のシステム手順などを示し手続き上の負担や不安を感じることなく入試に臨める環境整備を進める。

外国人児童生徒への対応について

(Ｑ) 占冠村では、外国人労働者が多く居住し、保育所や小中学校でも一定数の**外国人児童生徒が在籍しており、村や学校の負担が増加している**。人手不足の中、外国人材の定着に取り組む道として、市町村への支援の拡充や体制整備が必要と考えるが見解は。

(Ａ) 外国人児童生徒等の支援に関する協議会を毎年度開催し、受入体制の整備などについて協議している。今後は、有識者による相談支援の活用促進など**外国人児童生徒に対する教育の充実を図っていく**。